

ランドスケープ手法を用いた富士霊園の計画・設計に関する研究

日本大学大学院 学生会員 ○山崎 将寛
日本大学大学院 学生会員 山田 眞弘
日本大学 正会員 関 文夫

1. はじめに

静岡県駿東郡に位置する富士霊園（写真-1）は、総面積 213 万㎡、約 7 万区画の公園墓地である。首都圏の墓地問題を解決するために、小山町、静岡県、厚生省の協力を得て、1964 年 10 月 6 日に財団法人として設立が許可された。

造成を開始した 1964 年から 2014 年までの約 50 年間に亘り、設計・施工されてきた。富士霊園は、公園墓地でありながら、映画のロケ地として用いられ、1990 年に日本さくら名所 100 選、2014 年にグッドデザイン賞に選出された。

本研究では、東京から 100km ほどの距離に位置するが、年間来場者 70 万人以上となる富士霊園の計画・設計の魅力を分析していく。



写真-1 富士霊園

2. 霊園の概要と時代背景

(1) 都立霊園の時代背景

現存している都立霊園の時代背景を表-1 にまとめる。

表-1 霊園の時代背景¹⁾

年	霊園の開設・廃止	都立霊園の開通事項	社会の出来事
1840			・寺請制度の施行
1873			・キリスト教の禁制が解除
1874	・青山、同立山、雑司ヶ谷、染井、亀戸、谷中など8か所を造成	・青山神葬祭地ほか9か所を公共墓地として指定	・未印内での埋葬を禁ずるとともに「墓地取扱規則」を設ける
1876		・墓地の造成。管理事務は金蔵所から東京府に引き継がれ、墓地の管理は墓地の所在する区で扱うこととなる	
1889		・東京市に移管 ・青山（立山を含む）、雑司ヶ谷、染井、谷中、亀戸、流谷の6基地が市区改正設計（都市計画の前進）における公共墓地に指定される	・市町村制の施行
	・深川、亀戸、羽根沢、橋場の4か所が前後して整理廃止	・既存の4基地はほぼすべて使用許可済になる	
1923	・多摩霊園が開設		
1935	・八柱霊園が千葉県松戸市に開設	・墓地の名称を霊園に改める	
1943		・市営霊園は東京都に引き継がれる	・都政の施行
1948	・小平霊園が開設		
1954	・富士霊園が開設		・土地整理区画法の制定
1964			
1971	・八王子霊園が開設		

(2) 都立霊園の概要

キーワード 公園墓地、造成設計、戸野琢磨、マスタープラン、ランドスケープ

連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学理工学部 TEL.03-3259-0666 E-mail : csma15018@g.nihon-u.ac.jp

現存している都立霊園の概要を表-2¹⁾にまとめる。

表-2 都立霊園概要

霊園名	青山霊園	雑司ヶ谷霊園	染井霊園	谷中霊園	多磨霊園	八柱霊園	小平霊園	八王子霊園
創立年	1874	1874	1874	1874	1923	1935	1948	1971
所在地	東京都	東京都	東京都	東京都	東京都	千葉県	東京都	東京都
総面積	26.4万㎡	10.6万㎡	6.8万㎡	10.3万㎡	128万㎡	104.6万㎡	65.4万㎡	64.4万㎡
区画数	-区画	-区画	-区画	-区画	約6.8万区画	約6.5万区画	約4万区画	約3.5万区画

(3) 富士霊園の概要

富士霊園の概要²⁾を表-3 にまとめ、全体図を図-1 に示す。

表-3 富士霊園概要

法人設立	工事着工	開園	総面積
1964年10月7日	1964年12月6日	1965年7月9日	213万㎡(64万坪)
許可面積	総区画数	貸付区画	植栽
(墓埋法): 142万㎡(43万坪) (墳墓): 38万㎡(12万坪)	約7万区画	約6.4万区画	サクラ、ツツジ、ウメ、モミジ、シャクナゲ、ハス、スイレン、マツ、サツキ、コブシ、ハギ

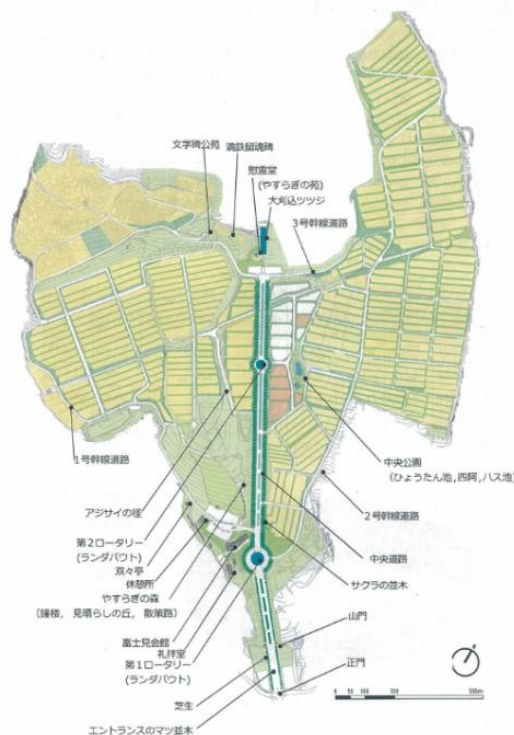


図-2 富士霊園全体図

3. 設計コンセプトと思想

(1) 設計コンセプト

南北に軸線を配置し富士山と箱根連山の眺望を確保し、緩やかな上り勾配の地形を生かした空間を構築する。

(2) 設計者の設計思想

富士霊園のマスタープランは、三星観光(株)と当時東京農業大学講師であった金井格が担当した。さらに、東京農業大学教授であった戸野琢磨の指導を行い、ランドスケープ手法を用いて構築された。両者の著作物のうち、戸野琢磨の「造園の計画と設計」³⁾(鹿島出版会、1970)に、墓地計画の項目があり、富士霊園の特徴と思われる記述が多々あった。その中に日本の墓地制度の未来像として表-4の6項目にまとめられている。

表-4 日本の墓地制度の未来像

- ・平面的な延長を少なくし、上下の空間利用を考究—立体墓地
- ・風光明媚な国土を有する国ゆえに飽くまで崇高静寂な浄園を創設して永眠の安眠場所を考えること
- ・土地は高燥にして多少の傾斜地も差支えなく、周辺に森林かその他の美しい環境を保存でき得るような場所
- ・都心より高速道路あるいは他の交通機関の便あり、1時間内外の距離
- ・墓地の維持管理はすべて経営者により墓地内の建造物は統制と制限を設けて景観を損するものを厳禁
- ・墓地の使用料は、大衆市民を目標として一部は公共の休憩所、宗教的な教訓を展覧に供し、また葬祭の兼用を許可

4. 計画・設計

(1) 配置計画

配置計画は、マスタープランを基に作られていると考えられ、造成前のイメージ図(図-3)と現在の園内図などと比較しても踏襲したと考えられるものが多々見られる。

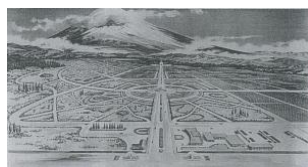


図-3 造成前のイメージ図

踏襲したものの1つとしてランダバウトが挙げられる。園内には、2つのランダバウトが設けられ、本来の交差点としての機能のほかに、エントランス側は曲がり角を、山側(写真-2)は道路断面の高低差を感じさせない工夫としても機能している。



写真-2 山側のランダバウト

(2) 道路設計

園内の道路は、中央道路及び幹線道路、区画道路ともに地形に沿って計画されている。これらは、道路に車を停めたとしても、通行が妨げられないよう表-5のような幅員に定められている。一部、カーブや地形の都合上停められない部分に関しては、駐車場が設けられている。

表-5 道路幅員

名称	道路幅員
中央道路	40m
一号幹線	6m
二号幹線	7m
三号幹線	6m

(3) 墓所の造成設計

道路設計後から行われ、50年間造成は続けられた(表-6)。幾何学的に区画や墓石が配置され、区画ごとに墓石の形状や墓誌、線香立ての規格を統一している。

また、1970年代より地形的に可能であれば、墓所内に管理用車両が入れるような設計がなされている。墓所と道路の出入り口(表-7)は法尻もしくは法尻と法肩部分の中間に多く設けられている。

(4) 植栽設計

造園手法として借景を用い、周辺環境となじむよう植栽設計がされている。また、植物の高さや形から、剪定などの作業を行う時期まで管理されている。例えば、エントランスには、芽摘みなどを行い、高さを約3～4mに抑えられた松が112本植えられている。

墓所の周りでは、道路と区画の間にバッファを設ける事で植栽のスペースを作り、低木(約1m)・中木(約5m)・高木(約10m)を織り交ぜて配置する事で植栽を立体的に見せ、中央道路や幹線道路、一部区画道路から墓石が見えない設計がなされている(写真-3)。



写真-3 墓所周り

5. まとめ

富士霊園では、造成を開始してからの50年間に亘り、設計、施工が続けられ、販売及び維持管理を行われてきた。富士霊園の魅力は、計画時のマスタープランが50年間継承され、時間の経過とともに、周辺環境になじみながら統一感のある空間が構築されたことに他ならない。改めて、マスタープランと設計の連動する重要性が示唆された。

参考文献

- 1) 都立霊園公式サイト(2016年1月18日閲覧)
- 2) (公財)富士霊園：富士霊園 50年のあゆみ、2014
- 3) 戸野琢磨：造園の計画と設計、鹿島出版会、1970

表-6 造成年代

造成年代		
年代	区	号
1964～1969	1	1,2,3,5,6
	2	1,2
	6	1,2,3,5
1970～1974	1	7
	2	3
	3	1,2
	7	1,2
	8	1,2
1975～1979	7	6,7,8
	8	3
	13	1,2,3,5
1980～1984	11	1,2,3,5,6,7,8
1985～1989	7	5
1990～1994	3	3,5
	7	3
1995～2009	10	1,2
	13	6
	15	1,2
2010～2014	5	1,2,6

表-7 墓所出入口位置

年代	法肩	中間	法尻
1964～1969	9	110	20
1970～1974	7	33	94
1975～1979	1	1	56
1980～1984	0	6	63
1985～1994	0	0	3
1995～2004	13	2	23
2005～2014	0	0	4